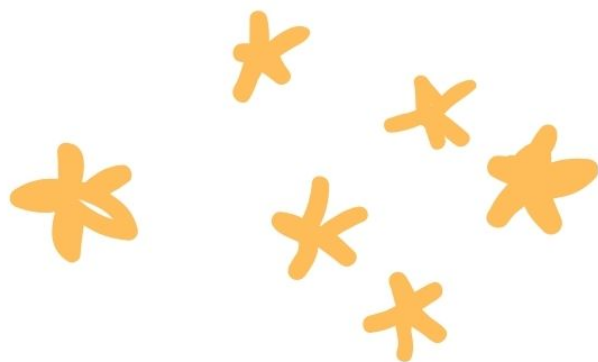


**令和5年度
芸術士インターンシップを終えて**





初めての芸術士インターンシップを終えて

高松市の政策コンテスト(※)で参加者からご提案があり、高松市ならではの働き方を体験できる芸術士活動のインターンシップを無事終えることができました。スタート時にどれくらいの方に応募いただけるか心配していましたが、6名枠に16名様のお応募をいただき若い皆様のアート×保育活動に対する関心の高さに、スタッフ一同改めて事業の肝を洗い出すきっかけになりました。

スケジュールを2期に分けて3人ずつの3日間、座学、視察、個別実践と体験いただきました。3日目の実践活動では子どもたちとの実習で笑顔がお部屋に溢れ、わずか1日の出会いでしたが、別れが忍びない体験ができたようです。鏡のように子どもたちは私たちの状態を映し出して反応してくれます。自ら楽しみ、先生方も楽しんでいて、子どもたちは何をためらう事があるでしょう。子どもたちと大人の心を解放する活動の想いやメソッドの一端を若い学生さん達と一緒に実習できた事は、我々も大きな財産として蓄積できました。叶うなら、お一人でも将来一緒に芸術士活動をしていただける仲間になっていただけるよう祈りながら、これからの学業と人生での研鑽を期待しております。

見守っていただいた関係の皆様、今回はご参加できなかった皆様、この場をお借りして報告御礼申し上げます。

NPO法人アーキペラゴ 代表理事 三井文博

※ 高松市の政策コンテスト・・・芸術士インターンシップ事業は、市が開催した「たかまつ政策アイデアコンテスト2022」で、参加した若者から理想のまちを実現するために提案されたアイデア。コンテストの提案を事業化するのは初めて。

芸術士インターンシップ スケジュール

A日程・B日程、それぞれ3日間3名ずつ、合計6名の学生に参加して頂きました。芸術士事務所にて講習、現場視察、現場実習とドキュメント制作等、芸術士活動を体験して頂き、芸術士について・芸術士の魅力・やりがいを知ってもらう機会となりました。

A日程 2023年8月23日(水)～25日(金) (3日間)

B日程 2023年9月 6日(水)～ 8日(金) (3日間)

1日目

10:00 集合
NPO法人アーキペラゴ代表理事 三井文博から挨拶
こども保育教育課から挨拶
10:15 自己紹介 一人15分×3人
11:00 ワークショップ
11:20 ワークショップの作品発表
11:40 「芸術士の成り立ち」について講義
12:00 休憩
13:00 テキストを使っの座学
14:00 ドキュメントの作り方について
写真撮影時の個人情報保護についての説明
15:00 終了

2日目

9:00 集合
9:10 出発
9:30 園に到着 見学
A日程：中野保育所
B日程：勅使百華こども園
12:00 園から退出
12:30 休憩
13:30 見学した活動の振り返り
14:00 白樺保育園での活動動画視聴
テーマは「活動を継続することについて」
14:20 ディスカッション
14:40 3日目に見学に行く園についての説明
15:00 終了

3日目

8:30 集合（活動する園の場所によって集合時間が変わる）、出発
9:00 園に到着 芸術士のアシスタントとして活動参加
A日程：若葉保育園、松島保育所、西植田保育所に各1名ずつ
B日程：高松東幼稚園、太田保育所、檀紙幼稚園に各1名ずつ
12:00 園から退出
12:30 休憩
13:30 見学した活動の振り返り
14:00 ドキュメント作り
15:00 終了

オンライン発表会を行いました

A日程・B日程それぞれの参加者合同で、作成したドキュメントを元にレポートをzoomで発表し、交流しました。

日時：2023年10月11日（水）14:30～16:00

【内容】

- 1、こども保育教育課から挨拶
- 2、インターンについての説明（NPO法人アーキペラゴより）
- 3、インターン生による活動報告（参加者6名）
- 4、質疑応答
- 5、挨拶（NPO法人アーキペラゴ代表理事 三井文博）



芸術士インターンシップ 1日目について

ワークショップを通して 交流をしました

1日目の午前中は、ワークショップをかねて自己紹介を行いました。自分以外の2人を色画用紙等の画材を使って表現するという内容です。芸術士はドキュメントを制作するときに対象となる人物をよく観察するのですが、その視点を持って自己紹介を聞いたり質問し合ったりして頂きました。短い時間での制作となりましたが、みなさんそれぞれ特徴や印象を形にされ、交流の場となりました。



芸術士の成り立ちについて

NPO法人アーキペラゴ三井理事長による「**芸術士のなりたち**」についての講義がありました。芸術士派遣事業の目指していることは、「アート」を通して子どもを育てること。子どもの何を育てるか？それは、子どもたちが持っている無限の可能性であり、感性や創造力です。2009年に高松市で芸術士派遣事業が始まったとき、施設の先生などから驚きの声が多くありました。また、芸術士も迷いながら現場での経験を積みました。幼児教育におけるアートの必要性、イタリアのレッジョエミリア教育の紹介、芸術士活動の具体例など、高松市での芸術士のはじまりについてのお話でした。



保育領域も学びました

午後はテキストを使った座学を行いました。芸術士は保育の現場に入るため、最低限の保育の知識は必要です。発育に関することや、現代の子どもを取り巻く環境についてなど、先生と知識を共有することでスムーズな活動ができます。また、芸術士だからこそ使用する素材や、その注意点なども学びました。芸術士は日常の保育とは違う環境を作り出すために、普段の施設では使用しない素材や道具を使う場面があります。接触アレルギーや事故防止など、知識を有することで現場での危険予測が深まります。

